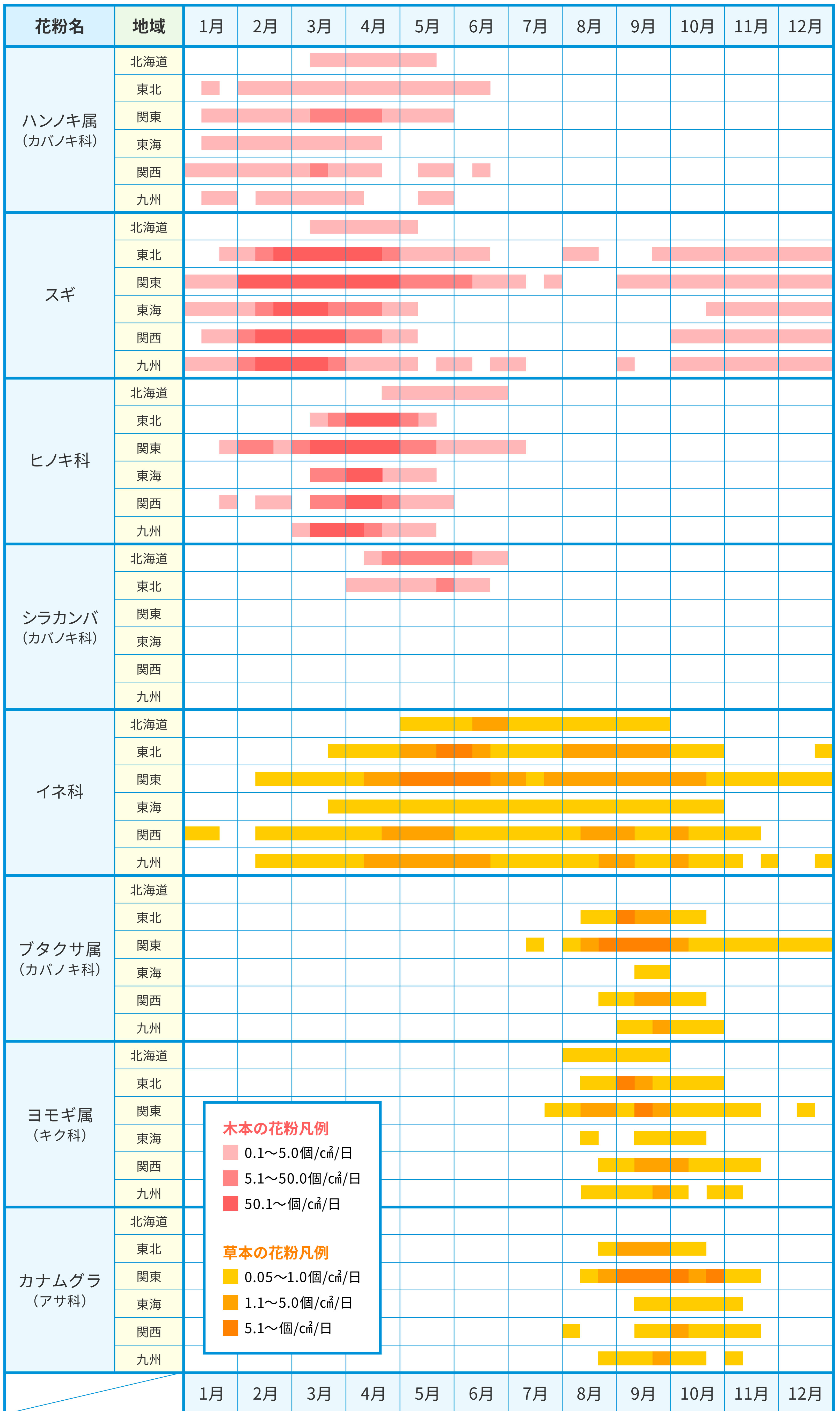


# 主な花粉症原因植物の花粉捕集期間(開花時期)



**木本の花粉凡例**

- 0.1~5.0個/cm<sup>3</sup>/日
- 5.1~50.0個/cm<sup>3</sup>/日
- 50.1~個/cm<sup>3</sup>/日

**草本の花粉凡例**

- 0.05~1.0個/cm<sup>3</sup>/日
- 1.1~5.0個/cm<sup>3</sup>/日
- 5.1~個/cm<sup>3</sup>/日

各地域を代表して札幌市、仙台市、相模原市、浜松市、和歌山市、福岡市におけるわが国の重要抗原花粉の飛散期間を示した。これらの抗原花粉は気象条件の変化による変動を考慮し、最近10年間、2002~2011年の重力法による結果を平均して旬ごとの1cm<sup>3</sup>当たりの花粉数をグラフにした。わが国で最も重要な木本のスギ、ヒノキ科の他、カバノキ科花粉、草本の初夏に多いイネ科、秋のキク科ヨモギ属、ブタクサ属およびアサ科のカナムグラの開花時期である。カバノキ科ハンノキ属はスギ花粉よりやや早い時期あるいはほぼ同時期に開花し、シラカンバは北海道、東北で初夏にみられている。スギ花粉は関東・東北で長期間大量にみられ、開花時期が長期化している傾向がある。年によっては11月を中心に10~12月にかけてわずかなスギ花粉が観測されている。これらは長期間にわたって協力いただいている調査結果の一部を示している。ゲノム解析ではスギはヒノキ科に分類された。

抗原性は今まで通りである。スギ、ヒノキ科ともに30年生樹林の増加に加えて夏の気温上昇、湿度低下の明らかな地域では気候変動の影響を受けて花粉生産が漸増している可能性が高い。わが国のスギ花粉症対策の1つとして環境省が体積法のリアルタイムモニター「はなこさん」<http://kafun.taiki.go.jp>を稼働し始め、ネット上で全国各地の単位時間ごとの情報が得られるようになった。まだスギ、ヒノキ科花粉開花時期でのみであり、重要花粉の調査解析に向けて開発中である。国際的な標準法のバーコード捕集器(体積法)による調査は世界の抗原花粉とその気候変動の影響について諸外国との比較が可能になる。